

DRUG



INFORMATION

2015 No. 24

平成27年7月30日

イーフェンバツカル錠の処方時には、
継続指示を入力してください！

岐阜大学医学部附属病院・薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp (担当：西垣)

イーフェンバツカル錠処方時には継続指示を入力してください！

イーフェンバツカル錠は、フェンタニルの口腔内吸収製剤であり即効性製剤です。経口困難な患者でも投与できること、消化管への影響の少ないフェンタニル製剤であること、従来の速放性製剤（オキノーム散、オプソ内服液）に比べて効果の発現が早いことなどがメリットといえる薬剤です。

しかし、フェンタニル製剤は他のオピオイド製剤と比較して呼吸抑制などの副作用が起きやすいといわれています。また、従来の速放性製剤と違い、定時投与しているオピオイド量とレスキューに使用するフェンタニルの有効量の相関性が低く、用量設定が必要な薬剤です。

そのため、イーフェンバツカル錠の添付文書には以下のように記載されています。

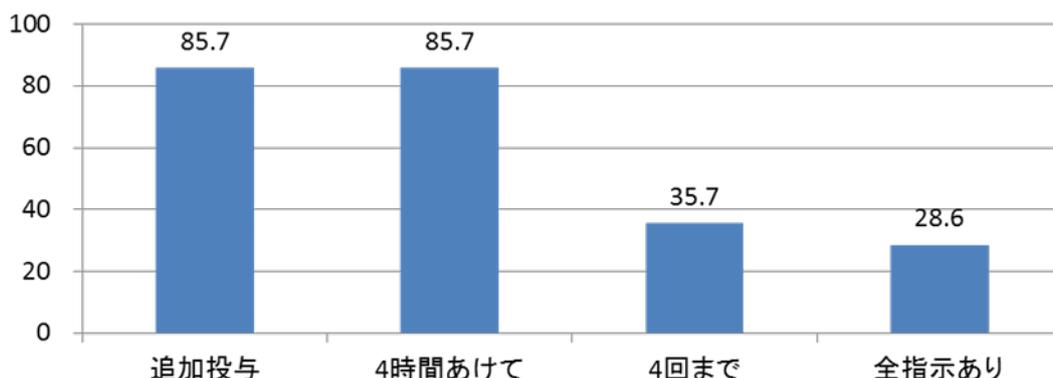
【用法・用量】

通常、成人には1回の突出痛に対して、フェンタニルとして50又は100 μ gを開始用量とし、上顎臼歯の歯茎と頬の間で溶解させる。

用量調節期に、症状に応じて、フェンタニルとして1回50、100、200、400、600、800 μ gの順に一段階ずつ調節し、至適用量を決定する。なお、用量調節期に1回の突出痛に対してフェンタニルとして1回50～600 μ gのいずれかの用量で十分な鎮痛効果が得られない場合には、**投与から30分後以降に同一用量までの本剤を1回のみ追加投与**できる。

ただし、用量調節期の追加投与を除き、前回の投与から**4時間以上の間隔**をあげ、1日あたり**4回以下**の突出痛に対する投与にとどめること。

現在、当院ではイーフェンバツカル錠は緊急購入薬品として採用しており、2013年12月から2015年6月までに計14名にイーフェンバツカル錠の処方がされました。それらの処方内容、継続指示の内容をカルテより調査した結果、継続指示入力の遵守率は「追加投与可能」、「4時間空けること」については85%の症例で入力されていたが、「1日4回まで」については3割程度の症例でしか入力されておらず、すべての指示が入っていたのは3割以下でした。



これまでの症例では過量投与した例はありませんでしたが、医療安全上の観点から、緩和医療チームおよび医療安全管理室と相談し、平成27年8月1日より以下の3つの対策を行うこととします。

① 処方時の注意喚起メッセージ

イーフェンバツカル錠は至適投与量の設定が必要です。
専用の継続指示入力をお願いします。

処方オーダー時に上記メッセージがポップアップされます。

② イーフェン使用時の継続指示の統一

【イーフェンバツカル錠投与指示】

- ① イーフェンバツカル錠 (50) μg 1回1錠 バツカル部位(上唇と歯茎)の間に投与
- ② 30分後に効果判定してください。効果ない場合はイーフェンバツカル錠(50) μg 1錠を追加投与する。
- ③ ①投与から4時間以内に疼痛増強があった場合は()を投与する。
以上を4時間以上空けて、1日4回まで繰り返し可能とする。

2回以上続けて②に該当する追加投与が必要であった場合は主治医へ報告してください。

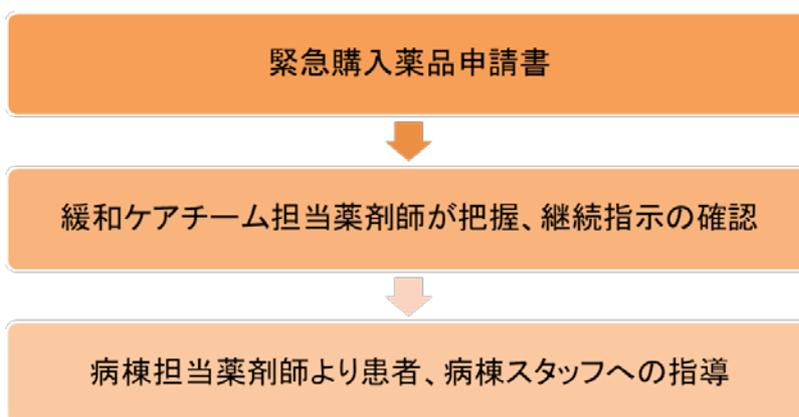
全科共通の継続指示として上記テンプレートがありますのでご活用ください。

原則として初回はイーフェンバツカル錠 50 μg から開始し、増量した場合は()内の数字を変更して入力してください。

また、イーフェン以外の疼痛時対処薬の入力をお願いします。

当院ではイーフェンバツカル錠 50 μg と 100 μg を緊急購入していますが、複数規格を同時に使うことのないようご注意ください。

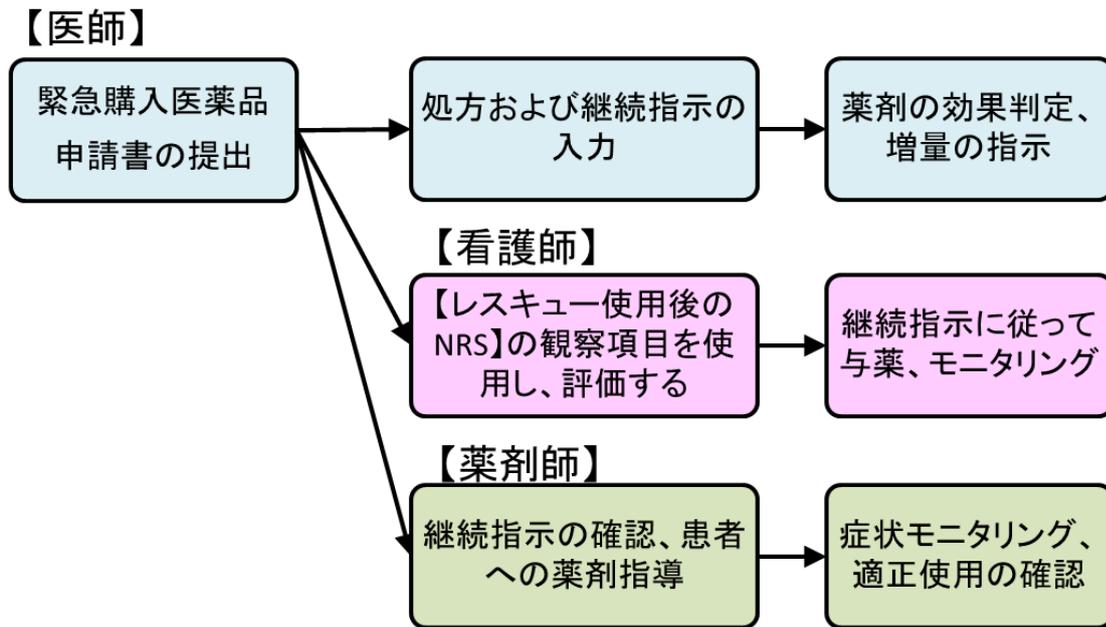
③ 薬剤師による確認、薬剤指導の実施



薬剤部では、緊急購入薬品申請書を受け付けた時点で、医薬品情報管理室より、緩和ケアチーム担当薬剤師に連絡し、継続指示の確認をさせていただきます。もし、継続指示の入力不備があった場合は、薬剤師より連絡させていただく場合があります。

また、病棟担当薬剤師より、患者さんへの薬剤指導をさせていただきますのでよろしくお願い致します。

運用のながれ



ご不明な点につきましては、薬剤部・医薬品情報管理室（内線 7083）または緩和医療チーム担当薬剤師(吉見 PHS 7129、山田(摩) PHS 8838)までご連絡ください。

イーフェンバツカル錠を使用される方へ

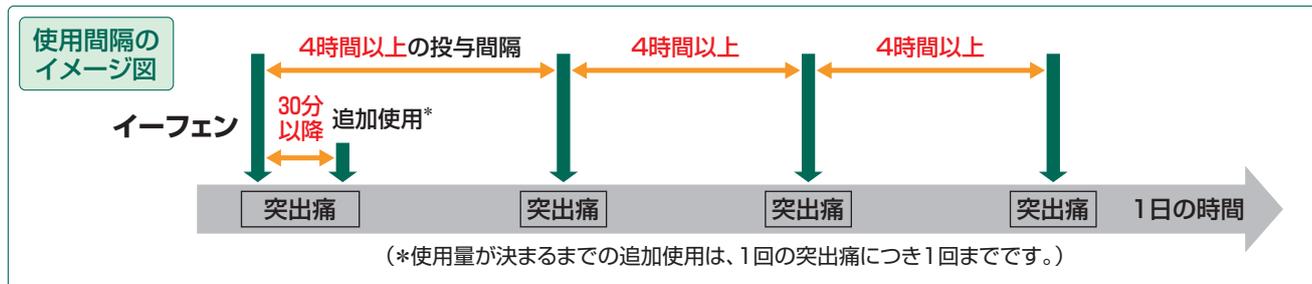
この薬は「がんの突出痛*」に使用する医療用麻薬です

*突出痛：突然起こる一時的な痛み

- 必ず小児の手のとどかないところに保管してください。
小児が誤って口に入れた場合、過量投与となり、重大な結果をまねくおそれがあります。
- この薬をあなた以外の人には、絶対に譲り渡さないでください。
- 医師や薬剤師の指示どおりに使用してください。

この薬の使用について ~医師や薬剤師の指示どおりに使用してください~

- この薬は、他の鎮痛薬と使用量の決め方および使用方法が異なります。
 - 最初の使用量は、50 μ gまたは100 μ gで、医師が決めます。
 - あなたの痛み合う使用量を決めるために、医師が段階的に使用量を上げていきます。
 - 使用量が決まるまでの間に、1回の使用で痛みがやわらがない場合、30分以降に1回だけ同じ使用量まで追加できます。ただし、**使用量が800 μ gの場合は、追加使用できません。**
 - あなたは「使用日誌」に記録し、医師に見せてください。医師が適正な使用量を決めます。
- 1日あたり**4回までの突出痛**に対する使用にとどめてください。
- 前回の使用から**4時間以上**あけて使用してください。(使用量が決まるまでの追加使用は除く。)



こんなときは医師や薬剤師に連絡してください

- 1日に突出痛が5回以上起こる場合
- 使用量が決まった後に、1回の使用で痛みがやわらがない場合
- 口内炎、口の中での出血、荒れや痛みなどの症状があらわれた時
- いつも使用している薬の他に、新しく薬を使用する場合や、これまでに使用していた薬を止める場合

この薬を使用するときの注意点

- この薬の使用中は、自動車の運転など危険をともなう機械の操作をさけてください。
- グレープフルーツジュースはこの薬の使用時には飲まないでください。

重大な副作用について

- 以下のような症状があらわれたら、すぐに担当の医師に連絡するか救急車を呼びましょう。
そのとき口の中に薬が残っている場合は、すぐに取り出しましょう。
 - 呼吸の回数が減る(呼吸抑制)
 - 意識がうすれる、なくなる(意識障害)

返却と保管するときのお願い

- 誤って使用しないように、以下の不要になった薬は処方された病院または薬局に返却してください。
 - 医師の指示により使用しなくなったイーフェンバツカル錠
 - 使用しなくなった他の同じ成分(フェンタニル)のレスキュー薬(レスキュー薬：突出痛に使用する鎮痛剤)
- あなた以外の人が間違えて使用することがないように、気をつけて保管してください。
- 直射日光、高温、湿気をさけて保管してください。
- この薬の取り扱いや持ち歩きの際は、シートの丸いふくらみ(凸部)がつぶれないように注意してください。

その他、この薬に関するお問合せは、担当の医師または薬剤師におたずねください。

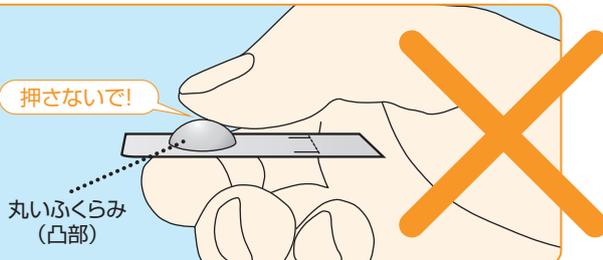


イーフェンバツカル錠の使用法

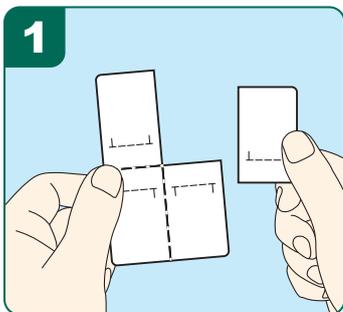
- この薬は飲み込む薬ではありません。
- 割ったり、なめたり、噛んだり、最初から飲み込んだりしないでください。
- この薬は吸湿性があるので、使用直前に開封してください。
- 開封したときに錠剤が割れたり、欠けたりしているときは、その薬は使用しないでください。

【押し出し禁止】

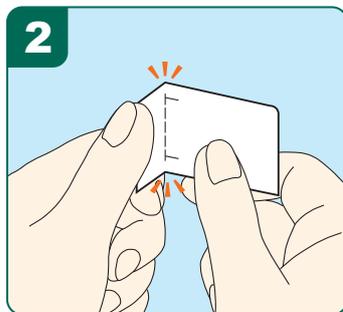
錠剤が割れるので、丸いふくらみ(凸部)は押さないでください。



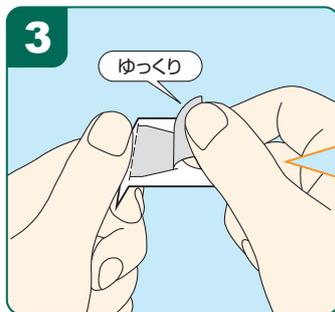
イーフェンバツカル錠の取り出し方



1 平らな面の切り取り線にそって1錠分を切り離します。(すでに切り離してある場合もあります。)



2 平らな面のミシン目を「山折り」にします。



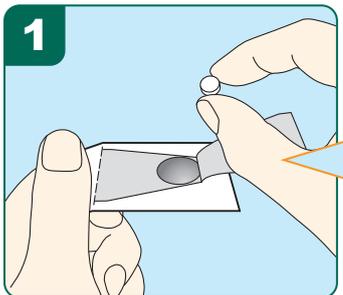
3 「ここをめくってはがす」と書かれた部分からまっすぐひっぱり、ゆっくりはがします。



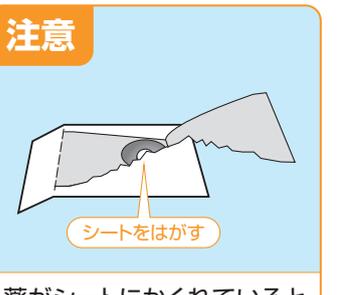
一気にはがすと薬が飛び出すことがありますので、注意が必要です。

■ 幼児がはがしにくいシートになっています。

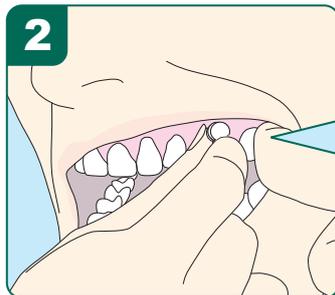
イーフェンバツカル錠の使い方



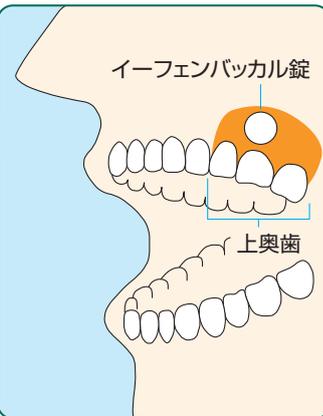
1 薬を指でつまみます。



注意 薬がシートにかかっているときは、残りのシートをはがしてください。(無理にかき出すと、薬が欠けてしまいます。)



2 上奥歯の歯ぐきと頬の間にはさみこむ様に置きます。そのまま置いておくと自然に溶けて粘膜から吸収されます。



注意

- 口の中が乾燥しているときは、少量の水で口の中を湿らせた後に使用しても構いません。
- 使用後30分経っても、口の中で薬の一部が溶けずに残っている場合は、水で飲み込んで構いません。
- 薬はなるべく左右交互に置いてください。(同じ部位への刺激をさけるため、前回右側に置いたら今回は左側に置いてください。)
- 口から薬を落としてしまった場合は、そのままにせず、流しやトイレなどに、水で流してください。(病院内の場合は医療スタッフにご相談ください。)